

## 【将来像】3 次代を支え挑戦する人を創る

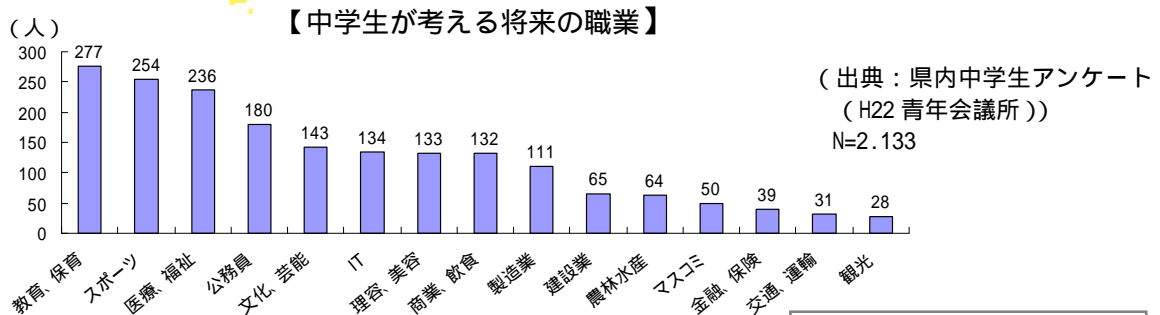
家庭、学校、地域などさまざまな主体の連携による、産み育てやすい環境づくりと特色ある教育の展開を通じ、誰もが、学びの喜びを実感し、課題に挑戦する意欲を持って、世界や地域の持続と発展に貢献している。

### キーワード

- ・子どもが生き生き育ち、学ぶ
- ・豊かな心や創造性を育む教育
- ・グローバル、世界で活躍
- ・地域づくり人材の育成
- ・世界の人とネットワーク
- ・アジアの人材育成の拠点
- ・挑戦できる人材、環境
- ・若年期からのしごと意識

### 夢提案

- ・学校の課題研究で私の地域は医療体制が整っていないことが分かったので、将来は看護師になって地域の医療に貢献したい。(加古川市高校生)
- ・海外に住んで、国連などで世界の色々な人と平和のための仕事をしたい。(丹波市中学生)



### 将来像のあらまし

(1) さまざまな主体の連携により、産み、育てやすい環境が整い、子どもたちが生き生き育ち、遊び、学んでいる

家庭、地域、学校、職場の連携により、仕事と子育ての両立支援、子どもの学び応援が展開されている

(2) いのちやふるさとの大切さ、生きる力を学ぶ教育が展開されている

特色ある体験型・課題解決型教育や、多様な社会教育が展開され、いのちや人の営みの大切さを理解し、生きる力を備えた人が育っている

地域社会の一員としての役割を果たす次代の地域づくりの担い手が育っている

(3) グローバルな共生力・協調性を身につけた人材が世界で活躍している

多言語取得や多文化理解、海外を視野に入れたキャリア形成プログラムの展開により、世界で活躍できる人材が育っている

(4) 兵庫発の次代の人づくりのしくみとネットワークが世界に広がっている

地球規模の課題解決に向けて学び、取り組む人同士のネットワークが国境を越えて広がっている

大学などの研究機関、国際機関群やNPO、行政などの連携により、兵庫発の課題解決のノウハウがアジア、世界に広がっている

(1)さまざまな主体の連携により、産み、育てやすい環境が整い、子どもたちが生き生き育ち、遊び、学んでいる

家庭、地域、学校、職場の連携により、仕事と子育ての両立支援、子どもの学び応援が展開されている

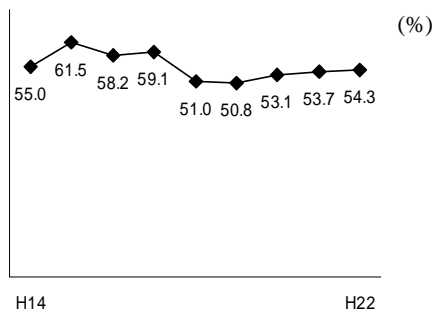
- 小さくなる家族の中で悩みを抱える子育て世代を、地域、学校、職場など地域全体が連携して支える子育て環境が整っている。
- 地域のさまざまな立場の人が、しごとや住んでいる地域の歴史や文化、資源を地域の子どもに教えている。
- 学校の運営に地域住民が積極的に参画している。

始まっている取組等

<地域と関係性を持った人づくり>

- ・地域の大人たちの経験や知恵を生かしながら、地域ぐるみで子育てや学びを支援する動きが活発化している。

【住んでいる地域に誇りや愛着を感じる人の割合】



(出典：兵庫県「美しい兵庫指標」県民意識調査)

専門家の意見

- 祭りや伝統文化を大切にする地域は、人を大切にする地域。祭りなど自分たちのふるさとを思う気持ちをひとつのキーワードとして、地域づくりを考えたい。(長期ビジョン推進委員会)

県民の意見

- 公民館、空き校舎などで、地域でいろんな経験をした人や技術を持った人が、子どもたちにいろんなことを教える場が広がればよい。(みんなの夢会議)

= 地域ぐるみで子育て「まちの寺子屋教室」(県内) =

中高年世代をはじめ、地域の大人たちの経験や知恵を生かしながら、地域ぐるみで子育てを支援する「まちの寺子屋」の開設が県内各地で進み、子どもたちにさまざまな体験活動の場を提供する中で、社会のルールや礼儀作法等を身につけるとともに、地域の伝統文化や地域のすばらしさへの気づきにつながっている。

= 父親を中心とした子育て活動(加古川) =

地域の子どもたちを地域で育てようという目標のもと「浜友会(父親を中心とした子育ての集まり)」が中心となって、地域の中学校・PTAと連携して、中学生を対象に月に1度外部(社会人)から講師を招き、地域への思いや生き方、働き方などを学ぶ「はまとも塾」を開催している。

= 女性のキャリア支援に取り組むNPO(神戸) =

子育て中の女性に対して、空いた時間を活用し、児童保育のスタッフとして働く場を提供。保育士資格取得のためのキャリア形成支援として、現場での実習を含めた研修を行っている。



家庭や地域で絵本の読み聞かせを進めるための「ひょうご絵本の伝承師養成講座」



女性のキャリア支援に取り組むNPO(神戸)

取組の視点

地域での多様な主体との連携による地域との関係性を持った次代の人づくりの推進

**(2)いのちやふるさとの大切さ、生きる力を学ぶ教育が展開されている**

- 特色ある体験型・課題解決型教育や、多様な社会教育が展開され、いのちや人の営みの大切さを理解し、生きる力を備えた人が育っている
- ふるさとの歴史や資源を理解し、地域への誇りや愛着を持った次代の担い手が育っている。
  - 地域との関わりの中で豊かな心や地域を愛する心を培うとともに、課題解決に向けて挑戦する力、困難にもくじけない強さを備えた人材が育っている。
  - 子どもたちが人と人との支え合いの大切さ、誰かのために行動する大切さを、地域のさまざまな人の協力のもと実体験から学んでいる。
  - 誰もが主体的に自分が将来就きたい職業やめざす目標を見いだすことができる。
  - 就業体験やボランティア活動などが定着し、広い視野と課題解決に向けた実践力を持った人材が育っている。
  - 美術館や博物館などの社会教育施設が中核となり、地域や学校、NPOなどと連携し、豊かな感受性を育む教育が地域で多様に展開されている。

**始まっている取組等**

**<特色ある教育活動が展開>**

- ・豊かな心や創造性を育むことを目的として、児童生徒の発達段階に応じた体系的な体験活動を推進しており、地域との関わりの中で、地域を支える人材を育成していく取組が、幅広く展開されており、兵庫発で全国に広がりを見せている。

= 地域の人材育成を地域で支援する

トライやる・ワーク（県内）＝

高校1年生を中心に、時代の変化に合わせて将来にわたり積極的に地域を支える人材としての自覚と態度を養うために実施。地域社会に貢献できる取組が企画され、高校生の地域社会に対する参画意識を高めるとともに、社会性や自主的な豊かな人間性を育む活動へとつながっている。



トライやる・ワークでの福祉施設体験

= 地域に学ぶトライやる・ウィーク（県内）＝

中学2年生を対象に、地域や自然の中で生徒の主体性を尊重した1週間のさまざまな社会体験活動を実施している。



青少年芸術体験事業「わくわくオーケストラ」

**<環境学習など多彩な体験学習が展開>**

- ・自然に対する畏敬の念をはじめ、いのちの大切さ、いのちのつながり等を実感することなどを目的とした体験型の学習が幅広く展開されている。



事例：小学校3年生を対象に実施される環境体験学習



事例：小学校5年生を対象に4泊5日以上で実施される自然学校



### <働くことへの関心を高めるためのキャリア教育の推進>

- ・就職、就業をめぐる環境変化の中で、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質を身につけ、働くことへの関心・意欲を高めるため、県内の高校では就業体験事業を実施している。

= インターンシップを通して将来の職業を考える（県内） =

事業所におけるインターンシップや職業人等の講話などを通して、自己の将来のあり方・生き方について考え、目標をもって、主体的に進路選択ができ、生徒に夢を実現する力を身につけさせる「高校生就業体験事業～インターンシップ推進プラン～」を全県立高校において実施している。

#### 県民の意見

- ▶ 自分の仕事に誇りを持って働いている大人が魅力的なところをどんどん語って、君たちをこんなふうに迎えたいという思いをどんどん若い人たちに発信していくような活動があってもいいのではないか。（神戸地域夢会議）

### <就業前の学生に目的意識を持たせる教育の広がり>

- ・学生時に長期間の就業体験やボランティア活動などを制度的に認める大学も現れている。

= ギャップイヤー制度 =

国際教養大学では、入学資格を得た学生に社会的見聞を広げるための猶予期間を与え、3月末までに入学を決定した学生に9月からの入学を認め、その間、ボランティア活動など多様な体験活動を行う制度を設けている。

= インターンシップ、ボランティアに参加する学生の戦略的休学 =

慶應義塾大学では、インターンシップ、ボランティアなど学生がさまざまな体験を積むことに対して休学を認め、授業料免除を実施。社会で何をすべきかを見つけるための休学であり、戦略的休学とも呼ばれている。

### <歴史と伝統を持つ学校の蓄積>

- ・県内には、歴史や伝統にあふれた学校が多数存在しており、特に私立学校では、戦前に設立された学校が7割を占め、うち100年以上の歴史を持つ学校も9校を数えるなど、魅力ある学びの場を提供している。

= 100年を越えるキリスト教教育 =

1889年、南メソヂスト監督教会派遣の宣教師ウォルター・R・ランバスによって創立された関西学院では、スクールモットー“Mastery for Service”という言葉に集約されるキリスト教主義に基づく高邁な全人教育の理念が100年を越える歴史の中で脈々と継承されている。



関西学院大学記念礼拝堂

= 江戸時代に源を持つ学校 =

県立篠山鳳鳴高校の設立は1876年。実際には、江戸時代中期の1766年、藩主青山忠高公が藩校「振徳堂」を創建、翌明和4年、教育方針「学規」が示され、篠山鳳鳴高校の教育の源流となっている。



## 取組の視点

- 学童期から職業人としての自立を促すしかけづくり
- 学生時における就業訓練や就業機会の確保
- 在学中の社会貢献の取組や卒業後の社会経験が評価される採用制度への見直し（新卒一括採用制度の見直し）
- 地域、学校、NPOと社会教育施設の連携

- (2) 地域社会の一員としての役割を果たす次代の地域づくりの担い手が育っている
- 兵庫で育つ子どもたちが、社会で果たすべき義務や役割を考え、主体的に行動できている。
  - 多くの人が、地域への愛着やよりよい地域づくりに向けた課題意識から、地域づくり活動の取組を始めている。
  - 地域づくり活動を始めた人々が、活動を通じて地域課題の発見能力、課題解決能力、調整力などを身につけ、地域づくり活動の中核として育っている。

## 始まっている取組等

### <市民教育（シティズンシップ・エデュケーション）の取組>

=シティズンシップ・エデュケーション（海外・イギリス）=  
2002年から英国の中学校レベルで必修化。文化の多様性に対する理解の醸成を柱としていること、体験を通じて学ぶことを重視していること、身の回りの問題から大きな問題を考えるアプローチを重視していることが特徴。類似の取組はEU全体に広がっている。

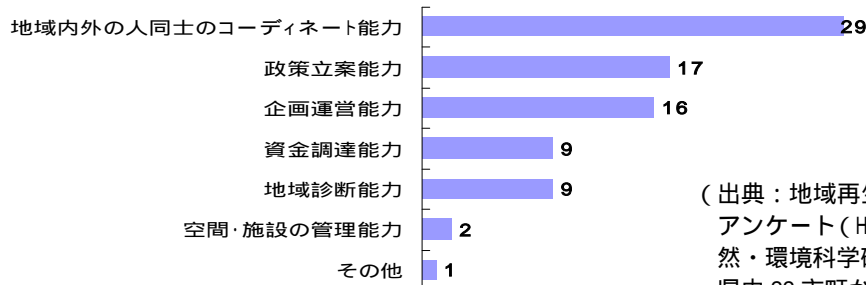
多様性理解の重要性を訴えるスコットランド政府ポスター



### <地域内外との連携による人材の育成が求められる>

- ・地域づくりの次代の担い手として、大学やNPOなどとの連携により、課題解決に向けた高度なコーディネート能力や政策立案能力を備えた人づくりが求められている。

#### 【地域で不足している人材能力】



（出典：地域再生人材の養成に関する市町アンケート（H21年11月兵庫県立大学自然・環境科学研究所）  
県内22市町が回答、複数回答可。）

=大学での社会起業学科の設置=

社会的弱者のニーズに対応した解決プランの企画力、起業のための人的ネットワーク形成力・資金調達力、事業を支えるための情報通信技術、コミュニケーション能力や国際的な視点を養い、地域社会や国際社会に貢献できる行動力を身につけた人づくりに向けて、大学において社会起業学科を設置する動きもみられる。

### 専門家の意見

- まちづくりは結局「人づくり」だが、人を育てるのは大変。地域の人材を見出す「人探し」が大切。地域の中で埋もれている人材をどう掘り起していくか。（大学教授）
- 計画づくりだけでなく、実践機能をもった地域づくりの支援機構が必要。丹波の森研究所のような地域密着型の組織が望ましい。（将来像研究会地域構造チーム）

## 取組の視点

子どもたちが社会参加意識を高める教育プログラムの開発  
地域づくりの実践力を教える場づくり

**(3) グローバルな共生力・協調性を身につけた人材が世界で活躍している**

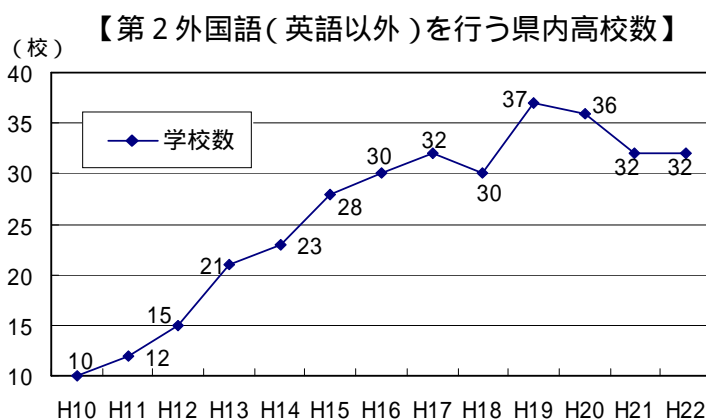
多言語習得や多文化理解、海外を視野に入れたキャリア形成プログラムの展開により、世界で活躍できる人材が育っている

- 多くの子どもたちが児童期から自然に外国人や外国文化と接し、外国語を習得するとともに、多文化が共生することの意義を深く理解している。
- 自分の能力を最大限に発揮するために留学や海外でのキャリアを積極的に志向する若者が増えている。
- 大規模災害や地球温暖化など地球規模の課題に関心を持ち、その解決に貢献しようとする意欲を持つ若者が増えている。
- 兵庫発の才能ある芸術家、デザイナーなどの創造的な人材が世界で活躍している。

**始まっている取組等**

**< 進む兵庫の外国語教育 >**

- ・国際的に活躍の場を広げる人材を兵庫から育てていくため、多言語学習や早期からの留学などの海外交流に向けた取組が実施されている。



**【海外への羽ばたきを目的とした県立高等学校での取組】**

名称	内容	実施規模
中国・広東省との高校生交流事業	姉妹省である中国広東州に研修生を派遣。帰国後の高校独自の交流の下地づくりに取り組む	県内 10名
中国・海南省との高校生交流事業	友好提携20周年にかかる生徒代表団による相互交流の覚え書き調印	県内 3名

**取組の視点**

- 子どもや若者が海外に接し、多言語習得や国際理解教育に取り組む機会の確保
- 海外の学校と連携した学生交流の拡大
- 若者の国際的視野の醸成や海外志向を促すしくみ、しかけづくり

**(4)兵庫発の次代の人づくりのしくみとネットワークが世界に広がっている**

地球規模の課題解決に向けて学び、取り組む人同士のネットワークが国境を越えて広がっている

- さまざまな国籍や経済的、文化的背景を持った若者同士が、交流を通じ、地域のしくみや社会の抱える課題の差異に気づくとともに、地球規模の課題解決に向けた新しい知恵をともに生み出している。
- 国境を越えて社会貢献に挑戦するさまざまな世代の人が増え、またその経験を子どもたちに伝えて、持続的な社会貢献のしくみが生まれている。

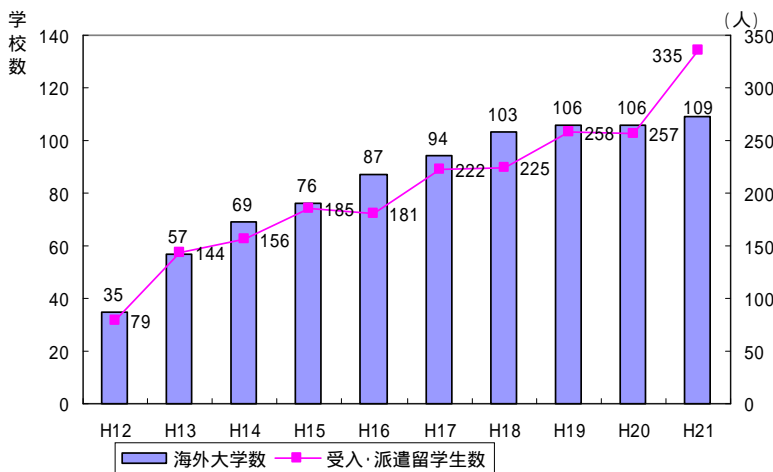
**始まっている取組等**

**<広がる学生の海外ネットワーク>**

- ・海外の学校と連携した学生交流が活発化しており、世界に羽ばたく人材の育成に向けた取組が始まっている。

**【HUMAP による海外大学とのネットワーク】**

県内大学と交流協定を結ぶ海外大学の数の推移と制度に基づき受入・派遣される留学生の人数の推移



(出典：兵庫県「美しい兵庫指標」)

HUMAP (ヒューマップ) とは兵庫・アジア太平洋大学間交流ネットワーク。  
 県内大学とアジア・太平洋地域の大学との交流を盛んにし、地域の教育や研究の水準の向上を図るとともに、将来を担う人材を育成。留学生に対する奨学金等の支給や留学情報提供体制の充実、ネットワークを活用した共同研究の推進や学術セミナーの開催などの知的情報発信を推進している。

**<青年海外協力隊派遣の実績が次世代の世界化へつながる>**

- ・ JICA (独) 国際協力機構) が実施する青年海外協力隊派遣のうち、兵庫県では現職の教員の参加が多い。派遣者本人が国際的な視野、豊かなコミュニケーション能力を身につけるだけでなく、帰国後、子どもたちへその経験を伝えることで次世代の国際化にもつながっていく。

**取組の視点**

- 国境を超えた学生、研究者のネットワークづくり
- 社会貢献の経験を次代へ引き継ぐ世代間ネットワークづくり



(4) 大学などの研究機関、国際機関群やNPO、行政などの連携により、兵庫発の課題解決のノウハウがアジア、世界に広がっている

- 阪神・淡路大震災の経験などを通して得た知見と国際機関の集積を生かし、兵庫が、防災分野、環境分野など世界のさまざまな課題解決に貢献する地域となっている。
- 世界レベルの人材育成の拠点・兵庫で学んだ国内外の人材が、それぞれの国や地域で指導的人材として役割を果たすとともに、取組で得た新たな知見を兵庫にもたらずしくみができている。

始まっている取組等

< 国際機関の集積 >

- ・ H A T 神戸（神戸東部新都心）には多くの国際機関が集積しており、兵庫が培ってきた防災分野などのさまざまな知見、コーディネート力を活用した課題解決のネットワーク構築が求められる。
- ・ 被災経験とそこからの教訓を生かし、防災分野での人材育成を目標とした開発途上国向けの研修が、県内のさまざまな機関を通じて行われている。
- ・ J I C A 兵庫では、神戸が古くからの国際貿易港であったことから貿易・食品検査分野や、瀬戸内海の環境管理のノウハウを生かした環境分野などを中心に研修員受入れを実施してきた。1995年（平成7年）の阪神・淡路大震災以降は、復興の過程から得られた知見を生かし、災害に対して脆弱な開発途上国の防災・復興を担う人材育成のため、海外技術研修員の受け入れなどの事業を行っている。研修員は、兵庫県内の自治体、大学、国際機関、民間企業、市民団体などから、自国で活用できる技術やシステムを学んでいる。



国際機関・研究機関が集積し、グローバルな課題解決に向けた研究・協力の拠点となっているHAT神戸



アジアを中心に増加する留学生が世界と兵庫をつなぐ

< 海を越えて広がる新たな社会課題への取組 >

= 防災ワークショップ「イザ！カエルキャラバン」  
（海外・グアテマラ、エルサルバドル）=

「イザ・カエルキャラバン」とはNPO法人プラス・アーツが開発した子どもを対象とした、おもちゃの物々交換に防災訓練やワークショップを組み合わせた、楽しみながら学べる防災教育プログラム。NPO法人代表者などがグアテマラ・エルサルバドルを訪れ、現地に即したプログラムを考案した。

両国は自然災害が多いことから、防災に対する意識が高く、現地マスメディアでも紹介された。



グアテマラの現地新聞に掲載

（写真は毛布担架を即興で作っている様子）

取組の視点

H A T 神戸に集積する国際機関群を中心とした人材育成と課題解決の拠点形成  
課題解決への新たな取組を国内外に波及するしかけづくり